

八思巴字官印集積

—『隋唐以来官印集存』の左阿速衛親軍都指揮使司百戸印—

吉池孝一

一

羅振玉『隋唐以来官印集存』民国五年(1916年)の三十葉ウラ右下に元代パスパ文字官印の印影が収められている。背刻の拓本はない。当該書巻頭の「目録」の記述によると、背刻には「左阿速衛□軍鎮使司二百戸印」「中書禮部造至正五年十月日」とあるが拓本は失われた(此失拓)という。なお、前者の□は判読不能であることを示す。印影は縦6.2cm×横6.3cm。印文は、左行より縦に読み、行は右に向かって進む。篆書体パスパ文字でjo【左】-‘(a)【阿】-su【速】-‘uè【衛】/‘c’in【親】-geun【軍】-du【都】/‘ji【指】-heue【揮】-šhi【使】/‘shi【司】-b(a)y【百】-γu【戸】-yin【印】とあり、「左阿速衛親軍都指揮使司百戸印」となる。この読みは照那斯圖1977の印3にある。

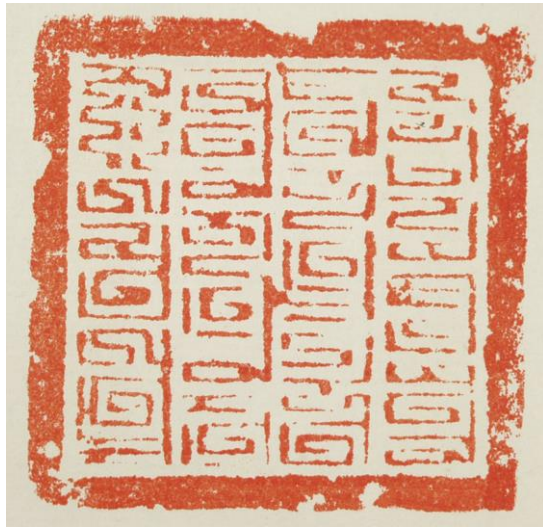
二

元史卷86(2168)に「左阿速衛親軍都指揮使司，品秩職掌同右阿速衛。至元九年，初立阿速拔都達魯花赤，置屬官。二十三年，遂名為阿速之軍。至大二年，改立左衛阿速親軍都指揮使司，置達魯花赤二員、都指揮使六員，副都指揮使四員，僉事二員。」とある。「阿速拔都達魯花赤」は官名で、「阿速」は部族名の音写。『元朝秘史』の第11卷§262及び第12卷§270に「阿速<sub>揚</sub>種」として登場する。村上正二(1976:300-302)によると、「AsudはAsの複数形で、『元史』には、「阿速、阿思」とあり、同時に「阿思、阿蘭」Ās, Ālānと熟字的に呼ぶ場合もある。北コーカサスのテクレ河上流に住むOssets人の祖族で、むかしはカスピ海東岸からドン河畔まで拮がっていたといわれ、古来尚武的人種として著名なイラン系遊牧民。」および「当時の文献には、ジョワイニーにもルブルクにもAlanとAsとを並記するが、アランがギリシア正教を信ずる古い住民であるに対して、アスとは南方のエルブールス山脈方面から西部に移住してきたイスラム系のもので、やがてアス族の勢力が強くなってアランの名称は消え去るにいたった。現今のオセセットOssetsという名は、このアスの変化したものである。元朝治下では、阿速衛親軍都指揮使司のなかに組み入れられ、元末の叛乱の際、元室のために働くこともっとも大きかった。」とある。邱樹森(2002:540)は「阿速 伊朗語族部落。亦作阿思、阿蘭阿思。主要分布在太和岭(今高加索山)北麓，信奉基督教。」とする。両者は記述の内容を異にしている。

三

当該書巻頭「目録」の背刻に関する記述「左阿速衛□軍鎮使司二百戸印」と印文「左阿速衛親軍都指揮使司百戸印」との相違が問題となろう。おそらく「左阿速衛親軍都」改行「指揮使司百戸印」とあったのであろう。1行目最後の「都」は摩滅のため読まれず、2行目初頭の「指揮」を1字と見做すとともに「指」を「鎮」と誤読した、というようなことであろうか。

なお、【使】の漢語音は審母であるからパスパ文字š2hiが期待されるけれども禪母š1の字形となっている。両者の区別はないとみてšで翻字した。【印】の漢語音は幺母であるが、パスパ文字で喻母y1と幺母y2の区別はないとみて、yで翻字した。



【参考文献（発行年順）】

羅振玉(1916)『隋唐以来官印集存』民国五年。

村上正二訳注(1976)『モンゴル秘史3 チンギス・カン物語』(東洋文庫 294)東京:平凡社。

照那斯圖(1977)「元八思巴字篆書官印輯存」『文物資料叢刊 I』北京:文物出版社。

邱樹森(2002)『元史辞典』済南市:山東教育出版社。

\*本稿は平成 25 年-平成 27 年度科学研究費助成事業基盤研究(C)課題番号 25370488「遼金元清文字資料の研究—電子データ化を中心として—」の助成による成果の一部である。